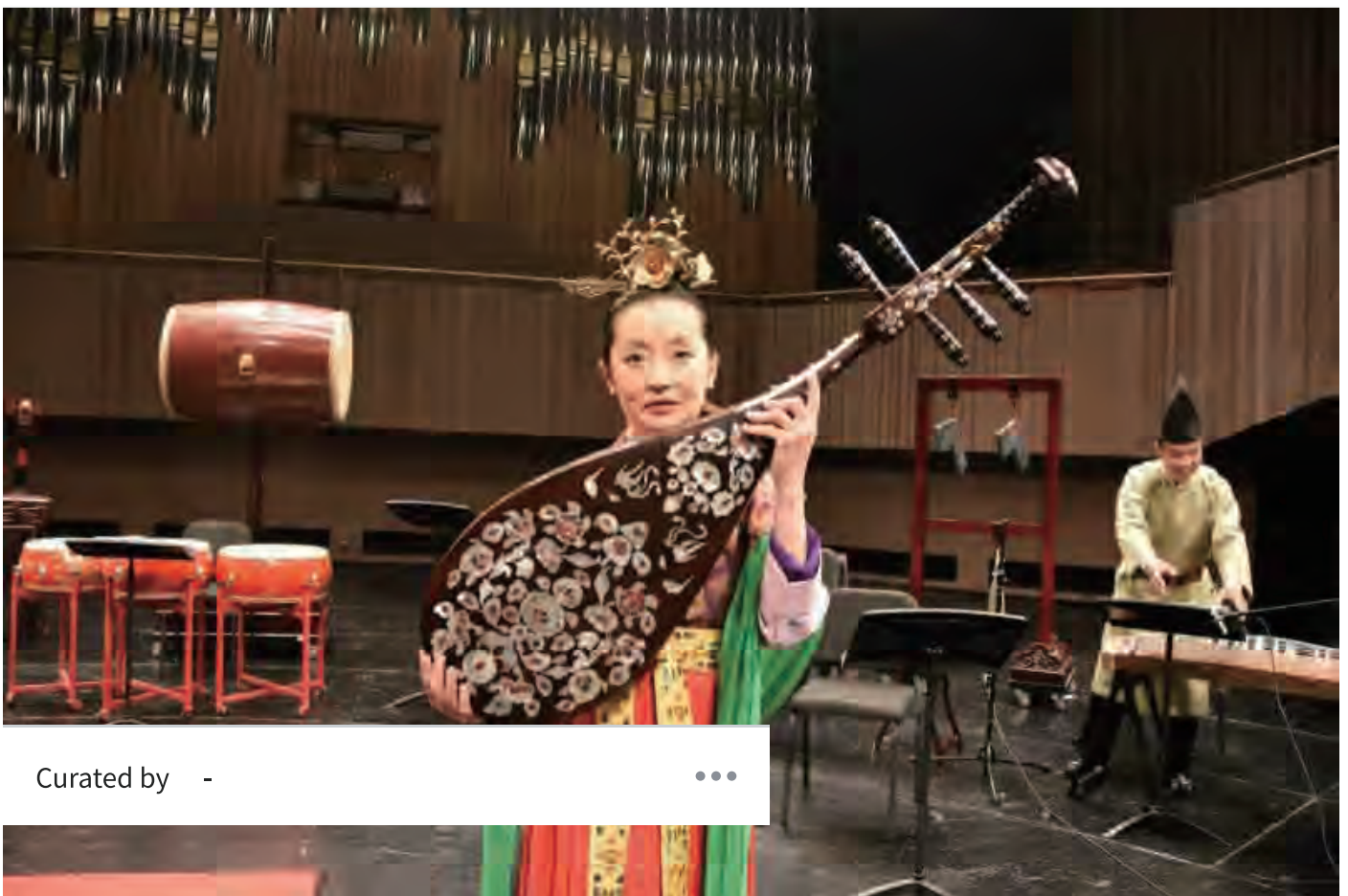


宮廷楽器が奏でる千年の音色、杭州で正倉院復元楽器の音楽会

2019/4/30 22:40

©新華社



Curated by -



宮廷楽器が奏でる千年の音色、杭州で正倉院復元楽器の音楽会

28日、螺鈿紫檀五絃琵琶を手にする邵容さん。（杭州＝新華社記者/許舜達）

【新華社杭州4月30日】中国と日本、韓国の演奏家十数人による「シルクロードの夢響 楽師の旅－天平楽府 正倉院復元楽器音楽会」が28日夜、浙江省杭州市

の浙江音楽学院音楽ホールで開催された。琵琶（びわ）や箜篌（くご）、排簫（はいしょう）、篳篥（ひちりき）など1200年前の中国唐代の宮廷楽器10点余りが登場し、現代人にいにしへの音色を届けた。



宮廷楽器が奏でる千年の音色、杭州で正倉院復元楽器の音楽会

28日、「新羅物語」を奏でる韓国の伽倻琴(かやきん)演奏家、金奥露（キム・ウク口）さん。（杭州＝新華社記者/許舜達）

演奏を行った「天平楽府（てんぴょうがくふ）」は、日本国籍を持つ中国出身の音楽家、劉宏軍（りゅう・こうぐん）氏が創設した楽団。これまでもシルクロードの伝統音楽や舞踊文化の継承・普及活動を行ってきた。今回の音楽会で使用された楽器は、1200年前に遣唐使が日本に持ち帰り、奈良の正倉院で大切に保管されてきた天皇家ゆかりの宝物を劉氏が復元した中国唐代の宮廷楽器で、箜篌

や古琴（こきん）、鳳笙（ほうしょう）、箏（そう）などが含まれる。



宮廷楽器が奏でる千年の音色、杭州で正倉院復元楽器の音楽会

28日、楽曲「飛天舞韻」で中国唐代の宮廷舞踊を披露する新疆芸術劇院歌舞団と浙江省歌舞劇院の団員。（杭州＝新華社記者/許舜達）

琵琶演奏家の邵容（しょう・よう）さんは手にした「螺鈿紫檀五絃琵琶（らでんしたんのごげんびわ）」について、中国では既に失われ、日本の正倉院でのみ大切に保管されてきたもので、復元されるまでは、どのような音色なのか誰にも分からなかったと説明した。

宮廷楽器が奏でる千年の音色、杭州で正倉院復元楽器の音楽会

28日、太鼓を打つ中国の打楽器演奏家、馬平（ば・へい）さん。（杭州＝新華社
記者/許舜達）

劉氏によると、天平楽府は30年以上前から古楽器の復元や複製のほか、古楽譜
の訳譜や収集活動も行っている。（記者/許舜達）